

# 日本航空株式会社の事業適応計画のポイント

令和4年2月22日

- 日本航空株式会社は、ポストコロナにおいて、航空運送事業が中長期的には再び成長軌道を描くことを見込んでおり、社会インフラとして不可欠な航空ネットワークを維持・拡充し、グローバル化、観光立国推進、地域活性化といった社会的課題の解決のための重要な役割を担うことに変わりはない。また、日本航空株式会社にとって、安全安心な航空輸送サービスの提供と航空機から排出されるCO2の削減等環境負荷の低減は、ポストコロナにおける最重要課題と認識している。
- このため、商品競争力・環境性能に優れたエアバスA350型航空機を新たに導入する。同機は省燃費かつ低騒音であり、従来機と比較して消費燃料およびCO2排出量を15～25%程度削減することが可能である。また、全席に個人用モニター、AC電源を装備するなど、快適性・利便性が高く、商品競争力の向上を図ると同時に、燃費効率の向上等により運航コストを抑制し、収益力を向上する。

## <事業適応計画の概要>

### 1. 事業適応計画の実施期間

令和4年（2022年）4月～令和9年（2027年）3月

### 2. 生産性向上目標、新需要開拓目標

計画終了年度のEBITDAマージンが、基準年度のEBITDAマージンを5%ポイント以上上回ることを目標とする。

### 3. 前向きな取組の内容

計画終了年度の売上原価率を基準年度と比較して5%以上低減することを目指す。

### 4. 支援措置

税制措置（繰越欠損金の控除上限の特例）

## <事業適応計画のイメージ>

### 新フラッグシップA350の導入



- 国際線：A350 - 1000
- 国内線：A350 - 900

#### 環境性能に優れた機材

- ・燃費15～25%向上（従来機材比）
- ・CO2排出量の削減

#### 機内仕様刷新

- ・個人用モニター・AC電源を全席に装備

ポストコロナの安全・安心  
・SMART AIRPORTの展開  
・デジタル証明の活用 etc.



お客さまに選ばれる  
エアライン  
⇒収益性の向上を実現